

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

《理工農系》

●埼玉大学理工学研究科環境システム工学系専攻

「地域環境保全エキスパート養成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

採択時の審査意見を重く受け止めてカリキュラム改訂を実施し、本プログラムに連動するインターンシップ科目を追加すると共に科目を統合再編し学生の研究テーマに即した履修体系を明確に整理した。「④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供」に関するアドミッションポリシー「環境に関心を抱く多様な教育歴を持つ学生を迎え入れる」として既に対応しており、今回のカリキュラム改訂により各分野における研究テーマの設定や実施が、「人間活動による環境への負荷を最小化する持続可能な循環型社会システムの構築に貢献する人材を養成する」という目的に即してより一層明確に位置づけられた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

各学期開始時の履修ガイダンスを充実させ、履修プロセスと本プログラムの特徴を丁寧に説明し、本プログラムへの参加登録を強く学生に推奨するとともに、学生指導を行う各担当教員には学生主体で現場支援型プロジェクトを立ち上げて積極的に研究活動を推進するよう指導することを徹底した。本プログラムに参加登録し課程を履修した学生には認定書を授与した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

各年度に20件前後の現場支援型プロジェクトを立ち上げることができ、参加登録学生数も在籍者数の過半数を越え、さらに複数のプロジェクトに参加して極めて活発に研究を推進する学生も多数現れるなど、科目の履修内容の理解を深めるとともに実践的な場における経験を重ねつつ研究成果を上げる学生が以前よりも確実に増加した。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

《理工農系》

● 埼玉大学理工学研究科環境システム工学系専攻

「地域環境保全エキスパート養成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

大学院課程教育の実質化を図ることを意図した本プログラムにおいては、実践的かつ高度な環境技術者としての能力を高めるために、学生が参加登録する各現場支援型プロジェクトごとに、指導担当教員が学外の連携組織との協議に基づき学外における研究活動の場を設定し、可能な限りインターンシップ科目の単位認定を希望する学生の受け入れ先としての連携協力を求めた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

学外連携組織の関係者に対して、各現場支援型プロジェクトごとに随時、研究会や報告会を開催するとともに、本プログラム全体としてポスターセッション形式で開催する中間並びに最終の発表会に招待して活発な意見交換の場を形成した。リーフレット、報告書の送付、webサイトの電子メールによる紹介など、多様な手段により活動紹介を行い、継続性のあるプロジェクトの推進に資する他、また新規連携先の開拓を行った。連携組織の関係者には学生のインターンシップの状況及びプロジェクトの推進状況に対する評価を依頼した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

各現場支援型プロジェクトの学外連携組織による評価を見ると、学生の社会性が高まり自覚をもって研究に取り組む意欲や規律の向上が見られたという意見が寄せられているとともに、研究成果に関しても十分な内容が得られたとする見解が示されている。学生による自己評価、指導担当教員による評価においても、同様の結果を得ている。